松里中学校　校内研究

「生きる力を育成する教育の創造」

－「わかる授業の工夫」と「家庭学習の充実」を通して「基礎・基本の定着」を図る－

Ⅰ　主題設定の理由

本校では，基礎学力の定着を図るために，国語・数学・英語の基礎的な知識や技能を問う「三大会」の取組を伝統的に毎年実施している。また，各教科では「学び合いのかたち」を授業の中に効果的に取り入れ，基礎・基本の定着を図りながら，授業の構造化のあり方を考え，「思考力・判断力・表現力」を養う授業展開の工夫を行ってきた。その結果，相手の考えや意見を理解しようと努める意識が高まり，学び合いの活動に生徒自身が深まりや広がりを実感することができた。

昨年度に続き「全国学力・学習状況調査」や「県学力把握調査」の結果を受け，本校でも「『話すこと・聞くこと・書くこと』における記述式の問題に課題があり，早急に個に応じたきめ細かな指導や学習集団による学び直しの機会を設定すること」を校内研究の柱として取り上げた。このことは，「わかる授業づくり」を通して，生徒が学ぶ大切さを感じ，思考力を高めることでさらに自ら学ぶ学習の習慣づけを進めることにも繋がるのではないかと推察する。また，より学習内容を定着させるためにも今年度から始めた「松中ノート」の取組にも力を入れてきた。さらに，「甲州市『確かな学力』育成プロジェクト」と関連させながら，Q－Uの分析やアタックシートの活用では，生徒や学級の状況を把握し，学びやすい学級づくり・集団づくりを考える指標とした。その上で，ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターなどを学級活動に取り入れ，授業規律を生徒に考えさせながら「学ぶ集団づくり」を目的として，以上のように主題を設定した。

Ⅱ　研究の内容と方法

1　内容

（1）基礎・基本の定着の土台を支える具体的な研究

ア　授業規律の確立（授業規律の評価シートづくりと振り返り）

イ　全国学力・学習状況調査や県学力把握調査の分析

ウ　Q－U調査の実施・結果分析・情報交換・アタックシートの活用

（2）基礎・基本の定着を図る具体的な研究

ア　「わかる授業づくり」の実践と指導方法および内容の研究と実践

イ　甲州市「確かな学力」育成プロジェクトにより年2回（5月，11月）実施されるQ－Uの分析と情報交換と東山梨教協ブロック研究会との連携

2　方法

（1）各教科ブロックで，「思考力」に関する授業づくりの実践内容と1年間の指導，生徒の変容についての情報交換と評価を行った。

ア　「スキルアップ授業の実践」を行い，形態・授業の流れ，授業後の反省等を記述した「実践報告シート」を作成した。

イ　研究授業の実践について，１学年英語科研究授業（9月）１学年数学科研究授業(12月)に峡東教育事務所指導主事を招聘して実施した。

ウ　学習に関する生徒アンケートを実施（事前は６月，事後は１月）した。

エ　「わかる授業づくり」の学習会を山梨大学教職大学院教授を招聘して６月に行った。

（２）Ｑ－Ｕについての情報交換と評価（取り組みの成果と課題）を行う。

ア　甲州市カウンセラーを10月に招聘して，「育てるカウンセリング」をもとにSGEやSSTの実践方法などを学んだ。

イ　２回の結果について各学年ブロックで分析し,手立てについて検討した(８月，１月)。また，各学年ブロックで検討した内容を全体で情報交換した。

Ⅲ　成果と課題

１　成果

「授業評価シート」では，生徒が自主的に授業規律を考えるきっかけとなり，「チャイム席」「挨拶・返事」「忘れ物」「意欲・発言」「姿勢」の項目で評価の高い「オール５をめざそう」という雰囲気がつくられてきた。

１月に実施した事後アンケート項目では,「授業中で先生の説明や友達の発表で大切なことはノートにメモをしている。」について，事前アンケート（６月）の69%から81%と伸びてきた。また，昨年度，最も低かった「意見交換や発表の場面で，自分の意見や考えを伝えることができている。」については,66%から77%となり,10%以上もポイントも上がった。さらに，松中ノートの定着と家庭学習の習慣化では，授業との連携を模索してきた結果，宿題に関して，「宿題は家で必ずやっている。」と回答している生徒は９割以上に上がった。これらを裏付ける形で，今年度の学校評価の保護者アンケートからも，「先生は分かりやすい授業をしてくれる」の項目が78%から85%に７ポイント,「子どもは授業に集中して取り組んでいる」の項目が77%から83%に６ポイント上がっている。これらのことから，授業の構造化を考え，「わかる授業づくり」の実践が，思考力を高める手法として有意義であったと言える。

２　課題

松中ノートの目的である「保護者に伝えて学習内容を理解し，基礎的基本的な学力の定着を図る」が十分に達したとは言えない。今後は，ノートのまとめ方を習慣づけたり，学習性無気力から来る学ぶ意欲の低下に注目したり，生徒個々にあった学習支援のあり方など多面的･多角的な視野で授業と家庭学習の連携を図ることが望ましい。

授業の構造化や授業規律についても共通理解や認識が必要であることがあがった。「わかる授業」が「できるようになる授業」へとつながってくような授業改善を常に行っていくことが大切である。

Ⅳ　成果物

１　一人一実践「スキルアップ授業の実践報告シート」

２　第１学年英語科学習指導案・第１学年数学科学習指導案・ワークシート

（研究主任　武藤英紀）